神戸大学キャリアセンター × 神戸大学生活協同組合

Future!!

2016年度
増刊号

特集「地元企業」

地元から、未来をつくる!

神大生が取材に行きました!!

掲載企業

極東開発工業株式会社
グローリー株式会社
コベルコシステム株式会社
株式会社サンエース
山陽特殊製鋼株式会社
新明和工業株式会社
トーカロ株式会社
日工株式会社
バンドー化学株式会社
株式会社ファミリア
古野電気株式会社
三ツ星ベルト株式会社
株式会社みなと銀行
森合精機株式会社

contents

Message from Company　地元企業の「会社」がスゴい！

「和協」の精神で成長し続ける企業に
極東開発工業株式会社　総務人事部　次長兼総務課課長　4

「実現したいという熱い思い」が高い技術力を支える
グローリー株式会社　開発本部　副本部長　6

“人財 " を磨き、プロフェッショナルを育む
コベルコシステム株式会社　システム事業部 システムビジネス本部 神鋼グループIT推進部 部長　8

永続企業になるために
株式会社サンエース　代表取締役社長　10

特殊鋼に宿る“信頼 " を支える技術の仕事
山陽特殊製鋼株式会社　鋼管製造部　鋼管製造課　熱延係　12

世界に認められた技術力
新明和工業株式会社　航空機事業部技術本部　民間機技術部長　14

うちは様々なメーカーと取引する、機械のお医者さんなんですよ
トーカロ株式会社　溶射技術開発研究所　企画管理課　16

関わりが生む技術力
日工株式会社　産業機械技術部　BP設計課　課長　18

コア技術の深化と進化で新たな製品を開発する
バンドー化学株式会社　R&Dセンター　光電材料技術開発部　主事　20

進化をし続ける老舗
株式会社ファミリア　代表取締役社長　22

既存の枠組みを越えてゆく、果てなき技術開発精神
古野電気株式会社　技術研究所　研究部　ハードウェア・システム技術研究室　室長　24

挑戦を支えるチームワーク
三ツ星ベルト株式会社　産業資材技術統括部　材料技術部　部長　26

過去から遥か未来まで。地域とともに歩み続ける。
株式会社みなと銀行　姫路統括部　法人営業部長　28

特定の部品を確実に洗える洗浄機を
森合精機株式会社　装置事業部　事業部長　30

取材テーマ別 INDEX

技術力
グローリー株式会社
山陽特殊製鋼株式会社
新明和工業株式会社
トーカロ株式会社
日工株式会社
バンドー化学株式会社
古野電気株式会社
三ツ星ベルト株式会社
森合精機株式会社

成長性
コベルコシステム株式会社
株式会社サンエース

理念・ビジョン
極東開発工業株式会社
株式会社ファミリア
株式会社みなと銀行

ＯＢ・ＯＧからのメッセージ　Message from OB/OG

「好き」を仕事にできる喜び
柏原　一仁さん　2015年　海事科学研究科修了　5

入社2年目の怒涛の3日間
富士原　考裕さん　2014年　工学研究科修了　7

イメージを覆す、会話溢れるチームでの日々
田方　友梨さん　2011年　理学研究科修了　9

地元の人に愛される存在になりたい。
中道　依里さん　2016年　理学部卒業　11

幼い頃から馴染みがあった企業での様々な経験
高田　明仁さん　2007年　経営学部卒業　13

社内のコーディネーター役として
田中　麻莉子さん　2011年　文学部卒業　15

客先の信頼を得ることは、小手先の金を得ることを超越している
檜山　耕作さん　1990年　工学部中退　17

情報を鵜呑みにせず、実態を見る
赤座　仁美さん　2016年　人間発達環境学研究科修了　19

若手が仕事を任されても安心して活躍できる
枝川　朝子さん　2015年　理学研究科修了　21

入社後に実感した「愛されるファミリア」と「働きやすい職場環境」
玉谷　佳穂さん　2016年　経営学部卒業　23

世界中で役立っている、その誇りを胸に。
市場　雄也さん　2015年　法学部卒業　25

「人の温かさ」がもたらす「働く楽しさ、意欲、円滑な業務」
伊藤　未紗さん　2015年　国際文化学部卒業　27

ゼロからの挑戦、掴み取った確固たる自信
伊東　こころさん　2005年　国際文化学部卒業　29

伝え方がとても大事
雪島　良太さん　2015年　工学部卒業　31

● この「地元企業特集」は、神戸大学生が取材を行い、記事を執筆しました。

取材 STAFF

五十嵐　流光　工学部　上西　宏治　工学研究科　傍嶋　真由　国際文化学部
髙橋　篤史　法学部　濱口　彰浩　経済学部　吉田　真菜　国際文化学部

小坂　晴彦　キャリアセンターキャリアアドバイザー　小嶋　洋子　キャリアセンターキャリアアドバイザー、神戸大学生協キャリア・就職支援企画課
小山　謙一　キャリアセンターキャリアアドバイザー　宅美　ゆかり　神戸大学生協キャリア・就職支援企画課
新居田　久美子　キャリアセンターキャリアアドバイザー　橋本　順子　神戸大学生協キャリア・就職支援企画課

「和協」の精神で成長し続ける企業に

極東開発工業株式会社

総務人事部　次長兼総務課課長　**栗末　英行** さん

取材テーマ
理念・ビジョン

極東開発工業は特装車の総合メーカーだ。創業から61周年を迎える歴史ある企業であり、会社の経営理念とビジョンについて総務人事部の栗末さんに伺った。

経営理念は「技術と信用を重んじ 一致協力して 企業の生々発展に努力し 広く社会に奉仕する」だ。たった7人で立ち上げた会社、戦後ゼロからスタートした会社であるため、社員全員で協力して社会の役に立ちたいという願いが込められている。

そしてもう一つ大事な理念がある。それは「信用、確実、和協」という社是。この3つの言葉は先の経営理念をキーワードで明確に表しており、より社員全体に浸透しやすくしている。この3つの中で一番重要なのが「和協」。経営理念の「一致協力して」の部分に当たり、社内報のタイトルも『和協』とネーミングしているそうだ。決して多くはない社員数のため、社員同士が協力し合って生産性を高めていかないとベストなモノづくりが出来ない。「和協の精神がずっと引き継がれているからこそ、少数精鋭で大きなパフォーマンスができていると思います。」と栗末さんはおっしゃった。

「持続的発展的に成長して、お客様や地域社会から広く選ばれる企業を目指す」というのが今後のビジョン。現在は少子高齢化を迎える国内市場に向けて市場シェアの拡大と新製品の開発、そして国外へは特装車をメインとした海外展開へのベースを作っていく段階で、それに向けたM&A展開も行っているそうだ。

また、社内では女性の活躍推進を進めており、多様なポジションでの活躍を期待して、女性社員が働き方や将来のキャリアアップなどを語り合う座談会を開いたりしている。社員全員を一堂に集めた創業60周年のイベントを企画する際も女性社員が大活躍したと教えてくれた。

課題に対してひたむきに誠実にやり切るという意味の「真摯」という言葉が好きだと語る栗末さん。「和協」と「真摯」を心がけ、周りから「ありがとう」と言ってもらえることがやりがいとなり成長につながるそうだ。就活生に対しても「自分が何をやりたいのか真剣に考えてほしいですね。就職活動に関しても自分がこの会社で活躍できるという風に思って真摯に取り組んでほしいです。」とアドバイス頂いた。

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

「好き」を仕事にできる喜び

入社２年目の神大 OB である柏原さんは、会社のカタログにまだ載っていない未発表の特殊車両を開発されている。

印象に残っている仕事を聞くと、現在担当しているヨーロッパ製林業機械を載せた車両の設計から製品化まで行った一連の仕事だという。受注から６か月、その半分を検討・図面作成に費やし製造・検査も行ってきた。取材日の直前に製品検査が終わり、あとは塗装や完成検査といった最終工程を経ていよいよ顧客に納入されるそうだ。達成感で満たされている柏原さんは、この仕事について「最初の最初から自分が関わっている。」とおっしゃった。これまでは上司や先輩が担当している製品に途中から参加という形だったが、今回は自分が最初から製品を担当し、苦労して図面を描いたものがほぼ完成まで来たことに大きな充実感を覚えておられる様子だ。

ヨーロッパの林業機械ということもあり、ヨーロッパのメーカーの方とのやり取りや実際に日本に来てもらって一緒に製品を作ることもあったそうだ。海外の仕事に対する考え方に触れ、視野を広げたことは良い機会だったという。

入社２年目にして大きな、そして海外と関わる仕事を任されることについて「ラッキーだと思います。」と笑う柏原さん。まだ誰も見たことのない製品を作ることができ、新しい考え方に触れることが出来て得たものは大きい。目指したい社会人像としては、達成感を今後も大事にして「仕事で困っても、柏原に聞けば何とかなるって言われるようになりたいと思います。」と語ってくれた。

極東開発工業ならではのことを尋ねると、やはり社是である「和協」という言葉が出てきた。今回の仕事では図面を描くのが遅れ気味だったが、周囲の人がスケジュールを調整してくれて完成まで持っていけたそうだ。色々な人が色々な形で協力してくれた、と柏原さんは振り返る。

小さい頃から働く車が好きだった柏原さん。「好き」を実現し、新たな目標に向かって活躍していかれるのだろうと感じた。

柏原　一仁 さん
2015 年　海事科学研究科修了

極東開発工業株式会社
技術本部　開発部

はたらく車〝特装車〟のトップメーカー

機械

極東開発工業株式会社

事業内容

特装車（ダンプトラック、ごみ収集車など）・環境機器（リサイクルプラント）・立体駐車装置など、生活・インフラを支える必要不可欠な製品の製造・販売・サービスを展開

PR

当社が作る「特装車」たちはそのほとんどがオーダーメイドです。お客様の様々なご要望を営業、エンジニアがカタチにしています。お客様の要望を受け受注販売していく営業や、一台まるごと設計する当社の技術者にとって、各製品が２つとないカスタムメイドといえます。オンリーワンの製品を皆さんの手で作りませんか?

採用職種

①設計・開発・生産技術・サービス等
②営業職・管理部門（財務・総務人事など）等

神戸大学生へのメッセージ

当社が作るはたらく車「特装車」たちは国内トップクラスのシェアを誇っています。学生生活の中ではたらく車たちと触れ合う機会はあまりないと思いますが、目線を変えて頂くと町中などで一度は目にした事がある身近な存在で、建設現場や物流など、様々なところで生活・社会インフラを支えています。

ホームページアドレス　http://www.kyokuto.com/recruit/

［執筆者／国際文化学部　傍嶋　真由］

「実現したいという熱い思い」が高い技術力を支える

取材テーマ
技術力

グローリー株式会社

開発本部　副本部長　**藤田　泰生** さん

■「認識・識別技術」と「メカトロニクス」

姫路に本社を置くグローリー株式会社は、銀行の通貨処理機、レジで使われるつり銭機、駅のコインロッカーや電子マネー読み取り端末などお金を処理する製品を作っており、各分野で国産第一号機を生み出している。開発本部 副本部長であり、神戸大学 OB でもある藤田さんに技術力について伺った。

学生にとって馴染みがない製品が多いが、マイコンを使ってロボットを作るような技術がベースだそうだ。ここからメカトロニクス技術と認識・識別技術を複雑に組み合わせて製品に組み込んでいる。メカトロニクスの分野では、当初の均質な通貨の金種判定や真偽判定をする処理技術が、今では多様な形状やひどく痛みのある通貨まで高速で処理できるようになった。認識・識別技術分野の最先端は顔認証技術であり、藤田さんは「トップクラスです。」と自信を持っておっしゃった。現在商業施設の防犯システムや、ホテルの客室の鍵代わりとしてこの顔認証技術が使われている。

■ 実現したいという熱い思い

「お客さんのニーズを解決するようなハードウェアとアプリケーションをソリューションという形で提供している。」と藤田さんはおっしゃった。新しい紙幣・硬貨が生まれれば今より高度な技術が必要になる。さらに、新しい技術を搭載した製品を作るとしても、能力を上げながらコストを下げなければならない。「それがエンジニアの頑張りどころでもあり、楽しくもあるところ。」と言う藤田さん。一つのプロジェクトを始めるとき、商品企画の段階から設計部門だけでなく、品質保証部門や生産技術部門、さらには資材を調達する購買部門までが最初から関わるという。顧客のニーズを実現するために様々な部門が源流から関わって製品を作っているのだ。「皆一旦始めたら絶対実現するまで諦めないんですよね。」と笑う藤田さんは印象的だった。

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

入社２年目の怒涛の３日間

開発本部 第二開発統括部 設計三部に所属する富士原さんは、神戸大学のOBで入社３年目の若手社員だ。「機械が大好きで、メカメカしいものを作る会社に行きたかった。」と就活当時を振り返る富士原さんは普段、銀行の窓口で使われる通貨処理機の量産フォローをしており、工場や市場からの要望を製品に反映させている。

印象に残っている仕事について伺うと、「入社２年目の怒涛の３日間」を教えてくれた。現在とは違う製品の担当をしていた時、製品の通貨保管箱の不具合が見つかり早急に解決が必要になった。解決を任された富士原さんはマネージャーと夜遅くまで残って図面を書き、翌朝１番に工場へ行って新たな部品の製造を頼み込んだ。部品を作りながら品質評価をし、出荷前の製品の部品交換と、量産ラインへの設計変更の手はずを整え問題は無事解決したそうだ。その時の気持ちを聞くと「ホッとした。」とおっしゃった。時間が無く一発勝負で直さねばならないプレッシャー、自分の書いた図面でまた問題が起きないかとひやひやしたそうだ。

この会社の強みを伺うと「大手企業と比べて仕事の幅が広い。何でもさせてくれる。」とおっしゃった。設計でありながら取扱説明書の作成をしたり、工場で一緒に部品の研磨をしたり、製品を組み立てたこともあるらしい。一つの製品を色々な面から見ることができるので、製品に愛着が湧くそうだ。自分が初めて設計した部品や、苦労したり思い入れのある部品を机に飾る社員も多いという。富士原さんも入社して１、２か月で設計した思い出の部品を机の中に入れているそうだ。

企業の信用にも関わるトラブルの解決を周りが見守りながら若手社員に任せる、そういう土壌があるから若手社員の経験やノウハウが蓄積されていくのだろう。そして自分の仕事が製品という形で目に見えることが、社員のやりがいに繋がっていると感じた。

富士原　考裕 さん
2014年　工学研究科修了

グローリー株式会社
開発本部 第二開発統括部
設計三部

貨幣経済の基盤を支える　通貨処理のNo. 1

グローリー株式会社

機械

事業内容

通貨処理機、情報処理機及び通貨端末機器、自動販売機、自動サービス機器などの開発・製造・販売・メンテナンス

PR

グローリーは通貨処理機（両替機・レジつり銭機など）のトップメーカーです。また、当社の製品は国内のみならず、世界100カ国以上でも利用されています。業界のパイオニアとして、他の追随を許さない独自の技術力と、長年に渡り培ったノウハウで、セキュア（安心・確実）な社会の発展に貢献しています。

採用職種

研究開発設計／生産技術／品質保証／フィールドエンジニア（保守）／営業／インストラクター

神戸大学生へのメッセージ

私たちが企業理念に掲げる「求める心とみんなの力」。これには、お客さま、社会のニーズに応えるため、社員全員が力を合わせて挑戦し、不可能を可能にしていくという想いが込められています。志を高く抱き、この想いを受け継ぐ仲間を求めています。

ホームページアドレス　http://www.glory.co.jp/saiyo/

［執筆者／国際文化学部　傍嶋　真由］

〝人財〟を磨き、プロフェッショナルを育む

コベルコシステム株式会社

システム事業部 システムビジネス本部 神鋼グループ IT 推進部 部長　**神原　一善** さん

取材テーマ

成長性

神戸に住む人なら誰もが知っている神戸製鋼。しかし、その情報部門を起源とする企業の存在を把握する人は少ないと思う。コベルコシステムは、元々鉄鋼や産業機械・環境事業など幅広い事業領域をもつ神戸製鋼の、多様なビジネス環境を支える IT 基盤構築を担っていた。現在はその経験と IBM のテクノロジーを活用し、グループ会社のシステム開発・保守運用の要を担い、大きく活動の幅を広げている。今回はそんなコベルコシステムの成長性についてシステム事業部の神原さんにお話を伺った。

情報システムを取り扱うという性質上、必然、個人の能力向上は第一に求められることである。「企業の成長すなわち人の成長」とは神原さんの言葉。「人財力」という言葉を掲げるところからも窺われるように社員を財産と考え、スキルアップを図る数々の手厚い制度が社内では整備されている。

「アプリケーションマスター制度」はそうした人財育成制度の中でも代表的なものである。

知識とスキルを磨くこの制度は習熟度に応じてレベルを設定、社員を目に見える形で着実に成長させてゆく。一番の特長は、IT 知識のみならず「生産管理」や「物流管理」、「経理・財務」など、お客様となる企業の業務知識を学ぶ点にあり、拡大する顧客の悩み・ニーズをより正確に捉え理解する土台が作られている。IT 以外の分野を学ぶこの制度、業界内ではコベルコシステムが先駆けであるそうだ。また、社員個々の自律的なキャリア設計のサポートにも積極的である。定期的な部下－上司間の目標設定を実施しながら、将来どの分野で活躍をしたいのか、どういう能力を強みにしていきたいかを意識し続ける工夫がなされ、その道のプロフェッショナルを育て上げていく。

個人が真に伸ばしたい力を見つけ、それを会社一丸となって後押しする仕組み。

社員育成にかける想いと充実した制度の数々は魅力的であり、自身のキャリア形成を納得感を持って行えると私は感じた。

自社が誇る IT 技術を生かしてグループ企業の発展に寄与し、事業領域の着実な拡大を実現していく。その影には、確かな人財成長の取り組みがあった。

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

イメージを覆す、会話溢れるチームでの日々

田方さんは学生時代、理学研究科に所属し地球惑星科学を専攻。プログラミングに触れる機会は当時から多く、就職活動では SE になることを念頭に企業選びを進めていた。神戸の街が好きであり、関西での就職を希望していたところ、まじめな社風に惹かれたことも相まってコベルコシステムに入社、現在に至る。入社 6 年目を迎えた田方さんにとって印象に残った仕事とは何か。詳しく伺った。

現在、三人のチームで 1 年半ほど仕事に取組み、その中でもリーダーを任されている田方さん。このチームでの仕事が自身の仕事に対する意識の転換点であり、非常に印象に残っていると語る。

就職前は仕事内容といえば個人でのプログラミングのイメージが強く、またそれを自然だと思っていた。しかし、ふたを開けてみればコミュニケーションが不可欠な環境であり、それを痛感させられた。特に現在の仕事に携わってからは海外拠点とのやり取りが多く、意思疎通は非常に重要になってきている。加えて、チーム全体を見る立場になったこともあり、責任を感じると同時に仕事観がガラリと変わった。

環境が変わることで仕事に対する心持ちも変わった。他者からの指摘を前向きに受け止められると感じる瞬間が増えたのだ。「怒られるとやっぱりへこむことも多かったんです」と田方さん。「でも、今は前向きに受け止めて改善に努められるようになりました」。チームでの仕事を通して、精神的に強くなった。

そんな田方さんの現在の目標は、先輩に追いつくようスキルアップすることだそうだ。

会社には知識・スキルという能力に優れ、また内面も誠実な素晴らしい先輩がいる。今はまだ届かないが、いずれ先輩に並べるように自分を磨いていきたい。そんな言葉から、この企業が重んじる人財成長の浸透が垣間見えた気がした。

田方　友梨 さん
2011 年　理学研究科修了

コベルコシステム株式会社
産業ソリューション事業部
インダストリーソリューション本部
西日本第1開発部　第1グループ

【日本 IBM ×神戸製鋼】IT で支える日本のものづくり

コベルコシステム株式会社

IT
IT サービス・ソフトウエア

事業内容

ビジネスシステムの設計・開発・保守
IT インフラの設計・構築・運用

PR

入社後3ヶ月間の研修で、ビジネスマナーやITスキルを身に着けて頂いた後、配属となりますが、配属後にもまだまだサポートは続きます。手を挙げれば任せてもらえる社風の中、上司・教育担当者・アドバイザーが連携し、「2年で一人前」のITプロフェッショナルになるまで見守ります。

採用職種

システムエンジニア（SE）
システム営業

神戸大学生へのメッセージ

当社で活躍する神戸大出身者は約 70 名!コベルコシステムは神戸製鋼所の IT 部門をルーツにした神戸最大の IT 企業です。神戸製鋼所の「ものづくり」を支える高度な業務知識と、IBM の最先端の技術力を融合させ、製造業はもちろん金融業・流通業と幅広いフィールドで事業展開してゆきます。

ホームページアドレス　http://www.saiyo.kobelcosys.co.jp/student/index.html

［執筆者／法学部　髙橋　篤史］

永続企業になるために

株式会社サンエース

代表取締役社長　**中山　勇人** さん

全国に約 700 社あるオートサプライヤー業界の中で No.1 の実績を誇るサンエース。自動車事故が起こった際に修理を行なう企業に材料を卸す専門商社で、材料のメインは自動車塗料である。社訓に『革新と創造』を掲げるサンエースの取り組みとは一体どのようなものなのか。

業界 No.1 として君臨するサンエースの真の姿は「商社とメーカー」の二足のわらじを履く企業であった。サンエースは業界の地域 No.1 企業 4 社を集めてトップネットというグループを発足させた。お客様に安くて良いものを提供したいという思いからトップネットで商品力開発委員会を作りプライベートブランドの副資材を 180 品目以上作っている。また、成長分野を探す取り組みもサンエース中心でトップネットが行なう。もともとは乗用車の修理をする企業中心の事業であったが大型車の修理をする企業にも事業を拡大し、一般的に塗料はシンナーのにおいのする溶剤系塗料であったが無臭の水性塗料を扱うようにもなった。

さらにサンエース独自で加古川支店にオートリフィニッシュ研修センターを持つ。このセンターでは、お客様があらゆる塗料の比較やその塗料の扱い方を知ることができる。塗料は溶剤系塗料と水性塗料で扱い方が違ったり、同じ水性塗料でもメーカーによって作業性が異なったりする場合があるが、その全ての扱い方を教えてもらえて一番合った塗料を提案してくれるのだ。これが出来るのは全国でサンエースだけであり、来られたお客様は大抵「すごいね。」と感動して帰られるという。自動車事故の減少により業界全体の仕事は減っているが、こうした取り組みからサンエースのシェアは増え続けている。

なぜこのように次々事業拡大を行なっているのか尋ねたところ、中山氏は次のように語った。「サンエースの最終的な目標は、永続企業になること。そのためには求められ続ける企業でなければならない。これからも世の中から求められ続けるように時代に即した色々な形で事業を続けていきたい。そのために社訓である『革新と創造』をどんどん進めている。」まずは 100 年企業になろうと熱意に燃える中山氏からこれからますます成長を続けるサンエースの姿が目に浮かんだ。

取材テーマ

成長性

先輩からのメッセージ

テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

地元の人に愛される存在になりたい。

中道さんは現在入社１年目、リファイン事業部で営業の仕事を行っている。大学生時代にこの『地元企業特集』を読んでおり地元企業に興味を持って就職活動を行っていた中道さんにその理由を伺った。「神戸大学に通っていたこともあり、神戸という土地が好きでした。知っている土地で働ける安心感が地元企業にはあると思いました。」と語る。実際働いてみると自分が安心感を持って働けることはもちろん、営業の際のお客様との会話も盛り上がることが多いという。神戸大出身であることを話すと「あなたもなの!私も神戸大出身なのよ。」と言ってもらえたり、「神戸の〇〇出身なの」と言われた場所が中道さん自身も行ったことがある場所だったりして共通の話題が生まれることが多く距離感を縮めやすいのだそうだ。

また、サンエースには仕事に熱くまっすぐな人が多いイメージを持っていたという。実際のところはどうだったのか聞いてみるとその通りだったと言い、あるエピソードを話してくれた。中道さんは、営業として工事が行われる周辺住民の方々に「工事をさせてもらいます、ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。」と挨拶をしてまわる活動をしている。営業は訪問数が数字となり社内でランキングとして発表されるので、ある時期の中道さんは数字を気にして闇雲に訪問活動をしていた。そんな時に上司の方から「お客様のために訪問活動できてる?」と言われたそうだ。お客様によって適切な訪問活動の方法は異なり、訪問する地域の範囲も変わってくる。適切に行うことで次の工事に繋がっていくことを教えられた中道さんは今ではお客様のことを第一に考えた訪問活動ができているそうだ。このお客様の幸せを第一に考えるという姿勢から、サンエースは基本精神の「皆揃って幸せになりたい。」を実践できている会社だと感じたそうだ。

「地元の人に愛される存在になりたい。」と語る中道さんはこれからも地元の人とのコミュニケーションを大切に日々活動していく。

中道　依里 さん
2016年　理学部卒業

株式会社サンエース
リファイン事業部
リファイン鈴蘭

神戸本社☆経済産業省「おもてなし経営企業選」選出企業!

株式会社サンエース

商社

事業内容

オートサプライヤー事業部（自動車の補修用塗料を取り扱う専門商社・売上業界全国No.1）
リファイン事業部（住宅リフォーム・パナソニックリフォームコンテスト受賞歴全国No.1）

採用職種

コンサルティング営業（オートサプライヤー事業部）・企画営業（リファイン事業部）

PR

「皆揃って幸せになりたい。」それが当社が掲げる基本精神。当社に関わる全ての【人】を大切に一人ひとりが真剣に仕事に取組んだ結果が、創業以来67年連続黒字、業界全国No.1の実績。その経営が認められ、経済産業省「おもてなし経営企業選」全国100社に選ばれた神戸本社の企業です。

神戸大学生へのメッセージ

神戸大学 OBOG も多数活躍中!サンエースは、抜群の経営安定のもと「革新と創造」を実践。
平成 28 年 2 月に新事業 JPMC が始動、3 月に M&A により株式会社シンエイがグループ会社となりました。新事業には当時 3 年目の若手社員が抜擢!神大地元企業特集に 6 年連続掲載されています。ブースにて皆様のお越しを心よりお待ちしております。

ホームページアドレス　http://www.sunace-net.com/

［執筆者／国際文化学部　吉田　真菜］

特殊鋼に宿る〝信頼〟を支える技術の仕事

取材テーマ

技術力

山陽特殊製鋼株式会社

鋼管製造部　鋼管製造課　熱延係　**名倉　一隆** さん

「特殊鋼」という言葉から学生が連想できるものは少ないのかも知れない。しかし、自動車・産業機械からパソコン・携帯電話まで、様々な製品の中で活躍し、世界の文明を支えているといっても過言ではないのが、山陽特殊製鋼の生み出す製品である。1933 年の創業以来、特殊鋼に求められる様々なニーズに応えるのみならず、開発・品質・安定供給などあらゆる面において市場から『高い信頼』を得ている。その高い信頼を技術的な面から支え続けている名倉さんに話をうかがった。

特殊鋼は主として受注生産であることから大量生産するものと仕事に違いがある。例えば、お客様からの注文内容は、規格外のものや 0.1 mm レベルでの調整が必要なものなど多種多様かつ非常に高度であり、特殊鋼をメインに扱っている競合他社が少ないことから山陽特殊製鋼にしか引き受けられないこともある。まず、初期段階で品質やコストについて考えていくのだが、この段階に進むのはそう容易では無い。なぜならば、その製品を作った前例がない、それに関する情報が非常に少ないからだ。高度で専門的な知識を必要とする知恵は、そう簡単に生まれない。まず理論を学ぶため様々なことを調べる、専門書を読む。しかし、理論通りに行かない場合や生産上の課題を解決するためには、知識を得た上で新たな発想が必要になる。これには、一人の発想では限界がある。そこで、他部署の方から大先輩まで、より多くの人の発想が必要になる。意見交換する上で必要なのは、まず自分の意見を持つこと、他の意見に対して否定から入らないこと、丁寧に対話する能力だそうだ。技術の仕事もひとりよがりになるのではなく、多くの人を巻き込んで仕事をする。人との繋がりを大切にし、最後には「ありがとう。」と言ってもらえる仕事をする。これが組織の中で仕事をしていく上で大切なことだと名倉さんは教えて下さった。

技術者として専門的なことを勉強しつつも最終的には様々な人が意見を出し合い、互いの意見を尊重した上で高い技術を生み出していく。そういった人から人のコミュニケーションを大切にした上での技術だからこそ、企業として高い信頼を得ているのではないだろうか。

先輩からのメッセージ

テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

幼い頃から馴染みがあった企業での様々な経験

高田さんの幼少期に「小さい頃に参加した地元の地域別ソフトボール大会に山陽特殊製鋼のチームがあって、その会社は“さんとくさん”って呼ばれていたんだよ。」というお話があった。そういえば、ここに来る時のタクシーの運転手さんもそうおっしゃっていた。それだけ山陽特殊製鋼が地元に根付いている企業だということだ。高田さんは、自分が育ってきた姫路に対して“幼い頃から馴染みがあった地元企業”で貢献したいという想いと共に、工場の見学をしたときに電気炉から鉄を作る現場のダイナミックさに文系ながらも「かっこいいな。」と心打たれたこともあり、ここ山陽特殊製鋼に入社を決意されたそうだ。

入社から現在まで採用活動や営業にも携わってこられた高田さんだが、現在の業務内容は経営企画部予算グループで、外部への損益の情報開示や会社の経営指針のために必要な経理業務、中でも主に原価計算をされており、数字と向き合うことも多いそうだ。地元企業というと、その地域で一つの仕事を続けるというイメージがあるかも知れないが、事業拠点を拡大し続けている山陽特殊製鋼は違うようだ。山陽特殊製鋼は、若いうちに様々な経験ができる会社であり、実際に高田さん自身も主として地元で働きながらも東京勤務や海外出張を経験されている。「今となって振り返ってみれば地元の中でのみ仕事するのではなく、外に出て様々な経験ができて良かった。」とおっしゃっていた。また、鉄鋼会社というとなんとなく体育会系、男性中心のイメージがあるかも知れないが、男性の育児休暇、女性活躍推進、ノー残業デイなど、いい意味でのギャップがたくさんあったそうだ。学生時代にイメージしていなかった“地元企業に勤めながらグローバルな経験”があり、キャリアを積む中で様々な仕事を経験させてもらえるなど、地元企業の魅力は意外なところにあるのかも知れない。

そして最後に、就職活動を進める学生にとっては原点回帰と言えるかも知れないが、なんとなく周りに流されるのではなく、自分の中での“ピンと来た”、“好きだ”といった感情を大切にして就職活動を頑張って欲しいと高田さんはアドバイスをくださった。

高田　明仁 さん
2007 年　経営学部卒業

山陽特殊製鋼株式会社
経営企画部　予算グループ　係長

「超高清浄度鋼」でクリーンな未来を創造します

山陽特殊製鋼株式会社

工
鉄鋼

事業内容

●特殊鋼製品の開発・製造・販売、●金属粉末製品の開発・製造・販売、●素形材製品の製造・販売、自動車や鉄道など社会・産業を支えるインフラには不可欠な素材が「特殊鋼」であり、社会の発展に大きく貢献しています。

PR

当社の特殊鋼は不純物を極限まで取り除いたクリーンな特殊鋼であり、この製造技術は世界トップレベル!その技術を駆使して造られる軸受鋼（自動車や新幹線、風力発電機、幅広い機械製品に不可欠な部品であるベアリングの素材）は品質・シェアともに業界トップ!当社の高い技術力と品質は、国内外で高く評価されています。

採用職種

理系：製造技術・管理、設備、研究開発、システム管理 他、文系：営業、経理・財務、総務、購買、生産管理 他

神戸大学生へのメッセージ

鉄鋼というとお堅いイメージかもしれませんが、業界では先駆けて女性活躍推進に取り組み、誰もが働きやすい会社づくりに努めています。その結果、経産省から「ダイバーシティ経営企業 100 選」に選出されました。特殊鋼業界や弊社のことを少しでも知っていただければと思いますので、是非弊社ブースにお越しください。

ホームページアドレス　http://www.sanyo-steel.co.jp/

［執筆者／工学研究科　上西　宏治］

世界に認められた技術力

新明和工業株式会社

航空機事業部技術本部　民間機技術部長　**望田　秀之** さん

神戸で航空機を作る唯一の企業、それが新明和工業である。航空機事業部は防衛省向けの救難飛行艇等を製造する部門と民間航空機の部門に分かれている。入社から一昨年までの 20 年間は防衛省関係の技術部で勤務し、現在民間機技術部で部長を務める望田氏は航空機を作る際に大切なことの一つは「安全性」であると語る。

航空機は地上を走る乗り物とは異なり墜落が絶対に許されないものである。例えば自動車の場合、もしエンジンが故障したとしても道の端で業者の助けを待てば良いが、航空機はエンジン故障で落ちますというわけにはいかない。航空機は最も命に関わる乗り物なので、故障率を「極めて低い」レベルにする必要があり、なおかつ万が一故障した際には別の機能を備えておかなければならないのだ。そのため、認証機関によって航空機に定められている基準の要求レベルは非常に高い。航空機に対する要求が落とし込まれて各部品に対する要求になる。検査は組み立て前の部品単位から始まる。そして徐々に組み立てながら精査を繰り返し最後に実機の試験を行なう。こうした丁寧な作業を積み重ねて要求を満たした安全な航空機を作っている。

新明和工業の技術力を向上させているのは、「どんな要求にも応える」姿勢である。民間機事業では海外の航空機会社から発注を受けて部品を作っているのだが、その要求レベルはどんどん上がっていく。その要求に応えた事例として、ボーイング社との取り組みである「Boeing787」の開発・製造がある。民間航空機として初めて機体重量 50% を超える複合材料を適用し燃料効率化をしようとボーイング社による試みがなされ、新明和工業はその機体の主要構造物である主翼スパーを複合材で作ることに成功した。またボンバルディア社の Global7000 と 8000 は大型ビジネスジェット機で長距離飛行をする機体だが、翼を普通よりはるかに薄くするという要求がなされた。難しい要求であったが、昨年の 11 月に初飛行を成功させた。これからさらなる軽量化を予定している。こうしてどんなに困難な要求であっても応えていくことで技術力を向上させ世界に認められる企業となってきたのだ。

「前途洋々とした、若々しいエネルギーに溢れた会社」という社名の由来通り、これからも難しい要求に応えるために精力的な事業を続けていく。

取材テーマ

技術力

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

社内のコーディネーター役として

文学部卒の田中さんは現在入社６年目。現在は航空機事業部の生産管理部で仕事をしている。学生時代は体育会部活動のマネージャーをしていたこともあり、周りの人と協力して１つのことを成し遂げる仕事がしたいと思っていたという。現在、新機種の立ち上げに携わっている田中さんにお話を伺った。

その新機種とは、ボーイング社のベストセラー機「Boeing777」の新型機である「Boeing777X」のことだ。これは、777と比べ複合材（金属よりも軽く強度は高い素材）の比率をあげて作られる民間航空機だ。田中さんのいる生産管理部は図面等技術情報を見てできる限りコストを下げる方法を考え、統一できる部品は統一して図面に盛り込む提案をする仕事をしている。新機種立ち上げならではの大変さを伺うと、「どういう部品・材料が生産に必要になるか、詳細が決まっていないところですね。」とおっしゃった。日々変化する図面に従って発注していた部品をキャンセルし、新たに買い直さなければならないこともある。材料の買い方１つとっても、できるだけ端材を無くした方がコストを下げられるので、大きい材料を買ってきて国内で切って加工するのか小さい材料を海外から買ってくるのかで異なり、考えなければならないことが多いのだそうだ。そんな中、田中さんは生産管理部の役割を「社内のコーディネーター役」だと語る。技術部が図面を書いて生産管理部がそれを見て材料や部品の手配を行う。その流れをつなぎ円滑なコミュニケーションがとれて１つのものを作り上げられた時に大きなやりがいを感じるそうだ。これからこの事業にどう携わっていきたいのかを伺うと「もっと技術的な知識を広げていきたい。」と田中さんは語る。コミュニケーションを円滑にとるにはそれぞれの部署の人の考えや気持ちが分かる必要がある。そのために、自ら工場に出向いて現場の声を聞き知識を吸収しているそうだ。入社から６年経っても向上心を持ち続けて新機種立ち上げに取り組む姿に感銘を受けた。777Xの完成が非常に楽しみだ。

田中　麻莉子 さん
2011年　文学部卒業

新明和工業株式会社
航空機事業部　生産本部
生産管理部　組立工務課

社会の期待に応え続けるモノづくりで、輝く未来をカタチにする。

新明和工業株式会社

Other
その他

事業内容

航空機、特装車、機械式駐車設備、流体システム、環境システム、自動電線処理機、真空装置、表面改質、その他産業機器

PR

数多くの飛行機を製作してきた川西航空機（株）を設立母体とし、現在は航空機、ダンプトラックなどの特装車、機械式駐車場などのパーキングシステム、マンホールポンプなどの流体機器、産業機器など幅広い事業で国内トップクラスのシェアを誇っています。

採用職種

【技術系総合職】
設計開発、生産技術、品質保証など
【事務系総合職】
営業、人事総務、経理財務など

神戸大学生へのメッセージ

新明和工業に興味をもって頂いた皆さんと、お互いのことを理解したいと考えています。だから私たちは、「個別面接」を採用しています。お話を伺い、個性を存分に発揮してもらうためです。是非、新明和工業で描く夢を私たちに熱く語ってください。チャレンジ精神旺盛な皆さんとお会い出来る日を心より楽しみにしています。

ホームページアドレス　http://www.shinmaywa.co.jp/recruit/index.html

［執筆者／国際文化学部　吉田　真菜］

うちは様々なメーカーと取引する、機械のお医者さんなんですよ

取材テーマ

技術力

トーカロ株式会社

溶射技術開発研究所　企画管理課　**辻　寿顕** さん

表面改質という言葉を聞いたことがあるだろうか。物質の表面に様々な機能性（たとえば耐熱性や耐摩耗性等）を付与する技術である。トーカロ株式会社は表面改質の総合メーカーとして様々な技術を保有している。主力となっている溶射技術とは、高硬度・高融点の金属やセラミックスなどの粉末を高温で溶融させ、微粒子のまま加工対象物に吹き付けて、基材表面に高機能皮膜を形成する技術である。人間でいうと、化粧をする時のファンデーションを塗る感じ、と言えばわかりやすいだろうか。世の中にあふれている様々な工業製品は、機械を使って製造されるが、機械部品には必ず寿命があり、腐食・摩耗・酸化・減肉・劣化などにより、日々装置トラブルが発生するリスクがある。これらの問題を表面改質技術により解決、または予防していくトーカロは、さながら「機械のお医者さん」と言えるのではないだろうか。

トーカロの溶射技術開発研究所で開発を行っている辻さんに、トーカロの強みを聞くと、「様々なメーカーと取引していることです。」と語ってくれた。表面改質はどんなメーカーの、どんな装置にも必要となる技術。実際、スマートフォンや風力発電、新幹線など、一見関係なさそうな分野でもトーカロの表面改質技術が活用される。特に新幹線のトラクションモーター用ベアリングへの溶射加工は国内シェア100%を誇る。新幹線の安全・安心走行にもトーカロの溶射技術が一翼を担っているのである。また、海外メーカーも含めて鉄鋼や半導体、エネルギー、航空機産業や環境など、幅広い業界と取引を行っており、最近では食品や医療業界にも進出を始めた。そして、この表面改質の技術は世界中で需要がある。新興国の市場が急速に発展している今、多くの企業と関わることで蓄積されてきた技術ノウハウにトーカロの将来性を強く感じた。

辻さん曰く、「社会で起きている大きな波に乗る」ために、営業や研究、設計部署の有志が集まって情報交換や勉強会などを行い、会社全体を巻き込んで新しいことにチャレンジする。それがトーカロの目指しているところなのだそうだ。

最後に辻さんから、「内定はゴールではなくスタート。将来に向けて、目標を持ちながら残りの大学生活を送って欲しい」とエールをいただいた。トーカロは国内や業界と言った枠にとらわれず、あらゆる企業と取引をすることが出来る。自分の知らない世界をたくさん知りたい人は、是非トーカロの扉を叩いてほしい。きっと、今まで見えなかったものが見えてくるだろう。

先輩からのメッセージ

テーマ「印象に残った仕事」

客先の信頼を得ることは、小手先の金を得ることを超越している

「会社はね、人なんですよ。人が生き生きしてないと良い仕事はできないよ～。」そう語ってくれた檜山さんは、時に熱く、時に面白おかしくトーカロでの仕事内容を話してくれた。

印象に残った仕事を聞くと、若い頃に大手電機メーカーの設計の方と熱く議論した末に信頼を勝ち得た話をしてくれた。事の発端は、納品した製品が動作不良を起こすという相手方からの電話クレームであった。「設計の方がめっちゃ怒ってて、しかも理屈っぽいから、取引先で随分熱く、動作不良のメカニズムについて議論しました。」檜山さんは楽しそうに話してくれたが、当時は1人で営業して、設計のプロ方を相手に機械加工や電気抵抗のバラツキ要因などロジックの話もして、とても大変だったようだ。

この時に、どんな相手にも臆せず自分の意見を言い、粘り強く向き合うことで、相手の懐に入り込むことができると気づいた。下手な小細工はしない。丸腰で相手ととことん話す。当時はまだ若く胃が痛い日も少なくなかったという。

最終的に向こうが納得してくれて、「うちで営業をしないか。」とスカウトされたときはすごく嬉しかったという。ただ、スカウトの話はすぐ断ったそうだ。理由は、「決まりきった製品を作るより、客先によって作るものが変わるトーカロのほうが圧倒的に楽しいやん。ドキドキがなくなりワクワクになるんですよね～。」そう言って笑っていた檜山さんの顔がとても印象的だった。

そして、その電機メーカーには12年経った今尚、同じ製品を納品しており、その当時の技術がいかに斬新であったかがわかる。また、この製品は12年間一度も競争相手との価格競争に陥ることなく、高利益商品として、企業の業績に貢献している。檜山さんによると、「客先の信頼を得ると大きな商品に育っていく。小手先のお金がどうこうを完全に超越している。客先も付加価値の高い新市場を創出できた。今までにないものを創ることがお互いに楽しい。」とのこと。

檜山さんは現在、工場長として部下の年代ごとに対応を変えながら毎日社員と話す時間を取っているそうだ。特に新入社員からは固定観念の少ない本音が聞けるので、フランクに接するようにしているという。しかし、気を抜いている社員がいたら、説教するのではなくヘルメットの上から一発だけ叩いて注意する。アメとムチを上手く使い分けていることで、社員と腹を割った話ができる関係を築き、社員の本音を汲み取って働きやすい環境作りをしていると、楽しそうに話してくれた。『ほめるのも叱るのもどちらも本気です（笑）。』

就活生も、マニュアルに則った受け答えをするだけでなく、自分が何に興味があるのか、どんなところに燃えるのかをどんどんアピールしてほしい。自分の意見をどんどん伝え、相手の懐に入り込むことで、生き生きした働き方ができるのではないかと感じた。

檜山　耕作 さん
1990 年　工学部中退

トーカロ株式会社
水島工場長

いつも最先端!トーカロの表面改質技術

トーカロ株式会社

非鉄・金属製品

事業内容

弊社は溶射を中心に、様々な表面改質技術を行っています。溶射とは、基材の表面にその基材とは異なる性質の皮膜を形成させ、新たな機能を付与する技術です。あらゆる業種業界に適用することが可能です。

採用職種

営業職、製造職、研究開発職、管理部門職

PR

弊社の表面改質を行うことで、耐久性、信頼性、品質向上及び省エネ化等が可能となります。鉄鋼、電力、自動車、産業機械等の基幹産業から、半導体・液晶、宇宙開発、医療等の先端産業まで、あらゆる産業から需要があります。不況にも強く、業界の市場においては、40%近く占めるリーディングカンパニーとなっています。

神戸大学生へのメッセージ

弊社の仕事内容は技術的要素が多く、全ての職種において、技術の知識が必要です。社内に技術を習得できる環境が備わっていますので、安心して働くことができます。また、社風としては風通しがよく、若手の時代から多くの仕事に挑戦することが可能です。学部学科は問いません。

ホームページアドレス　http://www.tocalo.co.jp/

［執筆者／経済学部　濱口　彰浩］

関わりが生む技術力

日工株式会社

産業機械技術部　BP 設計課　課長　**津田　直人** さん

日工株式会社はプラントエンジニアリング企業である。主にアスファルトや生コンクリートを作るプラント設備の企画・設計・製造から施工までを行う。1919 年の創業より培われた、混練・加熱・搬送の 3 つのコア技術により、多様な製品を製造し多岐に渡るその事業で存在感を示している。

津田氏はその技術の集約であるコンクリートプラントの設計に携わる。コンクリートプラントは、原料をベルトコンベヤ等で搬送し貯蔵・計量・混練という工程を効率的に行う、機械であり建物でもある。

日工の技術力の核を同氏は「技術担当者が直接お客様と打ち合わせをしながら一緒に作り上げているところにある。」と言う。コンクリートプラントは数千万円以上の製品で、新規・更新は年間 20 数台と決して多く出るものではなく、約 20~30 年間使用されるものである。そのため環境や設置条件など様々な要望があり、「2 つとして同じプラントはない。」と同氏は語る。だからこそ生の声を聞くことにより細かなニーズを汲み、長く大切に使用されるものなのだと実感し、使命感を持ち設計に当たることが重要なのだ。また、お客様から技術担当者に「こんなことが君のところならできるのではないか。」というアイディアが挙がり、そこから新規製品の開発に繋がることもある。企画段階ではあるが同社の混練技術を活かした、味噌の製造過程での混練を行う製品は、お客様の声から生まれたのだという。アイディアでなくとも、話を聞くことで知識が蓄えられ、潜在的なニーズを感じ取ることもできる。こうしたことも設計に活きるのだ。

どのような人物が日工の設計職に向いているかと伺うと、同氏は「コミュニケーションがとれることが一番重要であり、チームで仕事ができる人。」と語った。お客様や営業と関わり合い、実際の製造や工事組立、メンテナンスにまで配慮する必要があるため、全員で一つのものを作り上げるという意識を持てる人だ。

技術職だからこそ、人との関わりを重んじる。これが日工の技術力の源なのである。

取材テーマ

技術力

先輩からのメッセージ

テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

情報を鵜呑みにせず、実態を見る

「入社前後で地元企業へのイメージのギャップはなかった。」そう赤座氏は語る。その理由は、同氏の就職活動に対するスタンスに起因する。インターンシップに積極的に参加し、企業や人のイメージを掴むために、質問に対してどういった返答をするのか注目する。そして、そのイメージを基点に、自分の足で赴いた企業にだけエントリーした。自身の目で見て、耳で聞いて企業や人を感じることで、入社前後でのギャップを生じさせなかった。企業のホームページや説明会での話、就職活動生同士からの情報など、容易に情報を入手することができる昨今で、情報を鵜呑みにせず、自身の感じたものを重視する姿勢の重要さを痛感させられる。そうした中で赤座氏は日工の５日間のインターンシップに参加し、以下のような魅力を感じた。①高い資本金・売上高を少数精鋭で成し遂げていること②高い技術から高いシェアを有し、ニッチで他の企業が参入しにくい事業である堅実さ③関西にありながら全国を視野に入れて働けること④働く方々の雰囲気が非常に温かかったこと、などである。

赤座氏は現在、財務部経理課にて働いている。数字の裏に何があるのかという興味から配属を希望した。「測り方次第でどれほど証拠の揃った数字も間違ったものになる。実態に合わせた測り方を考えるのが面白い。業務で言えば、ある数値を集計して原価計算を行うがその方法が本当に正しいのか、というところに繋がる。」と語る。また、経理だからといって数字にひたすら向き合うだけではない。課内で情報を総括し、その情報を活かした全営業所の経費情報集約という人との関わりをベースに、業務運用変更という革新的な内容にも携る。経理に必要とされる素養を赤座氏は「従来の方法を常にそのまま踏襲するのではなく、実態を本当に表しているのかと疑う姿勢が大事だ。」と言う。この素養を常に意識しながら、他者との密接な関わり合いはもちろん、既存にない新規のものを作り出す。

入社前、赤座氏は財務や工業に関する勉強をしたことがなく、勤務時間外には用語や資格取得の勉強に励んでいる。「現在、全営業所との関わりを担っているが、ゆくゆくは税理士レベルを目指し、それくらいの専門的知識を蓄えて業務に携っていきたい。」と語る。上司の方からの「経理でひと皮剥けたと言われるようになるのは10年経ってから」という言葉を胸に、予算の統制といった経営の根幹に関わることを目標に、自己を研鑽し続ける。

赤座　仁美 さん
2016年
人間発達環境学研究科修了

日工株式会社
財務部

街をつくる機械、つくってます

日工株式会社

機械

事業内容

- アスファルトプラント、コンクリートプラント、各種リサイクルプラント（システム）の製造・販売
- 各種プラント等の制御装置の製造・販売

PR

皆さんが毎日歩く道路に敷かれた「アスファルト」住んでいる建物に使われている「コンクリート」。当社は豊かな生活に欠かせないインフラ整備に必要な、それらを生成するプラントや環境関連製品を製造している『機械メーカー』です。1919年設立以降蓄積した〔技術〕〔安定した資本基盤〕〔業界TOP〕が自慢です。

採用職種

総合職（営業、メンテナンス、機械設計、制御設計、開発、製造技術、管理部門）

神戸大学生へのメッセージ

当社は２年後に創業100年を迎えます。そんな企業の一員として一緒に働きませんか？説明会では先輩社員が会社の魅力や仕事についてお話しする機会や、内定者に就活全般の相談や質問ができる機会を設ける予定です。「百聞は一見にしかず」　是非みなさんの肌で当社の雰囲気を感じてみてください。

ホームページアドレス
- http://info.nikko-net.co.jp/
- https://job.mynavi.jp/18/pc/search/corp52537/outline.html

［執筆者／工学部　五十嵐　流光］

コア技術の深化と進化で新たな製品を開発する

取材テーマ
技術力

バンドー化学株式会社

R&D センター　光電材料技術開発部　主事　**外村　卓也** さん

バンドー化学株式会社はゴム・プラスチック製品のメーカーとして、車に使われる伝動ベルトや運搬用のコンベヤベルト、複写機などに使われるクリーニングブレードを作ってきた。そして「R&D センター」という研究機関でコア技術をさらに深く追求しながらも、社会潮流に合わせて別の製品に展開、新たな用途を発見するための研究開発を行っている。

今回、取材をさせて頂いた外村さんは、R&D センターで金属ナノ粒子を使った製品開発をまとめる役割の神大 OB だ。チームで開発している製品の一つは、ある特殊なインクなのだが、それが生まれたキッカケが、あるプリンタメーカーの特別なニーズであった。

それまで金属ナノ粒子を扱ってこなかったが、コア技術である分散技術をナノ粒子に用途展開できると考えたそうだ。開発を始めて約 15 年、徐々に実用化し、顧客の手に渡りつつあることが「非常にうれしいですよ。」と外村さんはおっしゃった。

こうして顧客ニーズの実現をし、地道な研究をビジネスにつなげていくためには、展示会などの場を含めた業界全体ひいては社会全体を視野に入れていかなくてはならない。展示会に出した自社の新製品がテレビで紹介され問い合わせや反響をいただくなど、その成果が出てくることに「とても大きなやりがいを感じます。」と外村さんは目を輝かせていきいきと話す。

車や OA 機器などを支える部品を作ることが同社の使命であることから、自社の製品を「黒子」と表現されながらも「結局我々の材料を選んで頂いているお客様はですね、我々の材料じゃないとできないところを実感して頂いているのです。」と笑顔を見せた外村さん。創業 110 周年を迎え、企業として幾度の波を乗り越えてきた技術力への自信と、既存のものに満足せず社会潮流を捉え技術を進化させる土壌が未来への展開を作るのだと実感させられた。

先輩からのメッセージ　テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

若手が仕事を任されても安心して活躍できる

今回、お話を聞かせて頂いた枝川さんは入社2年目の神大OG。表情は柔和であるものの、入社して間もないと思えないほど話の内容は説得力があった。

バンドー化学との出会いは、学内開催のインターンシップ説明会。就活が始まって同社の説明会に行くと、インターンシップ担当の人事の方が覚えていてくれて声をかけられた。「人をちゃんと見てくださる会社だ。」という印象を持った枝川さんは、選考を通して「この会社では思っていたことが話せて、企業が言われていることに共感できる」と感じ入社を決めたそうだ。内定を頂いた後に、実家や所属研究室に挨拶状や企業のＤＶＤ資料が送られてきて、日本らしく行き届いた企業だと周りから言われたという。

入社後に驚いたことを伺うと、研究以外に顧客と接点を持つ営業的な仕事も多いことだという。新製品開発の為には相手のニーズを聞きながら開発を進めることが必須なので、研究職の社員自ら顧客と対話することも多い。上司からも「会社の未来がかかってるから。」と本気半分冗談半分で言われるので、枝川さん自身「頑張らないと。」と改めて感じているそうだ。

R&Dセンターの印象を聞くと、若い人が多く活躍しているとのこと。20代～30代の若い社員が多いが、責任のある仕事を任されるそうだ。プレッシャーはないのかと伺うと、「最初は緊張するが、初めてお客さんに会う時は上司が同行し、研究を進める間も逐一ミーティングをしているので大丈夫。」と教えてくれた。

取材を通じて、人を大切にする企業だとひしひしと感じた。半年間に及ぶ充実した研修制度もあり、若手に仕事を任せつつ見守りながら経験を積ませることで、社員の成長を促し、企業の一員として同じ方向に邁進することができるのだろう。

枝川　朝子 さん
2015年　理学研究科修了

バンドー化学株式会社
R&D センター
光電材料技術開発部

ベルトと機能製品で「際立つ」グローバルサプライヤー

バンドー化学株式会社

自動車・自動車部品

事業内容

自動車部品：自動車用伝動ベルトなど
産業資材：産業用伝動ベルト、運搬ベルトなど
高機能エラストマー製品：クリーニングブレード、高機能ローラ、フイルムなど 、その他：ナノ粒子関連製品など

PR

1906年の創業。ベルトメーカーのパイオニアです。自動車・産業機械・農機などの伝動ベルト、コンベヤベルトや軽搬送用ベルトに加え、複写機などに組み込まれるクリーニングブレードや建築・医療・装飾関連のフイルムなど、ゴム・プラスチック・樹脂の機能部品メーカーとして、グローバルに事業を展開しています。

採用職種

技術職：研究開発、製品開発、生産設備開発
営業職：国内営業、海外営業

神戸大学生へのメッセージ

神戸発祥の歴史あるＢ to Ｂメーカーであり、神大出身者が大変多く活躍しています。また、包括連携のもと研究開発を行うなど、神大とは多くの交流があります。社名は「化学」ですが、製品開発や生産設備開発の分野で「機械」「電気」系の技術者が多く活躍しています。

ホームページアドレス　http://www.bando.co.jp/employment/index.html

［執筆者／国際文化学部　傍嶋　真由］

進化をし続ける老舗

株式会社ファミリア

代表取締役社長　**岡崎　忠彦** さん

「進化し続ける老舗になりたい。」と
代表取締役社長の岡崎忠彦氏は語る。

ファミリアといえば、何といっても上質なベビー・子ども服。欧米の育児方法をもとに細部までこだわりを持って作られた衣服は根強い人気を誇っている。しかし、それだけを事業として続けていくのでは会社は進化していかないと岡崎氏は考える。毎年子どもは生まれ、その時代によって母親のニーズも変わっていく。日々移り変わるマーケットに対応するためには色々なプロジェクトにつなげていく必要があるのだ。そこで 2015 年に「子どもの可能性をクリエイトする」という理念を掲げた。これを機に保育施設である「プリスクール」の運営開始や、子どものためのイベント開催などこれまでの枠にとどまらない試みがなされている。

岡崎氏は、会社が進化をするためには上司から「こうしなさい」と言われるのではなく、社員一人一人が新しいアイデアを生み出していくことが必要だと考える。失敗してもいい、理念に合ってさえいればどんなアイデアでもどんどん実践していく。そうした雰囲気作りの一環として、「べっぴんランチ」という企画を行ったそうだ。これは社員が担当日を割り振られてその日のランチを考え用意するというもので、いかに他の社員を喜ばせるかを考えさせることで発想力の向上につながったという。このように岡崎氏自ら積極的に社員を盛り上げる仕組み作りに取り組んでいる。

日々進化を続けるファミリアが向かう先、それは「世界で最も愛されるベビー・子ども関連企業になること」。67 年目を迎える今年、せっかくなら 100 年続く仕組み作りをしていきたいと語る岡崎氏からは、これから新しいことに挑戦し続けようというまさにベンチャー企業のような若い勢いを感じた。

取材テーマ

理念・ビジョン

先輩からのメッセージ

テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

入社後に実感した「愛されるファミリア」と「働きやすい職場環境」

現在入社１年目の玉谷さんは、梅田の阪急百貨店で販売の仕事を行っている。接客をして商品を売ったり仕入れをしたりと大忙しの様子だが、疲れを感じさせずに笑顔で答えてくださる姿が非常に印象的で、仕事を楽しんでいらっしゃることがよく伝わってきた。

地元企業であるファミリアに入社した理由を伺うと、自分の生まれ育った場所で恩返しができるからであるという。実際に働いてみて接客していく中でも、「自分の子どもにファミリアの服を着せて育てたよ～」や「子どもにも将来ファミリアを着せたい」といったお客様の喜びの声を頻繁に聞くという。働く前はそんなに感謝されるとは思っておらず、地元の人に代々愛用してもらっている認められたブランドなのだと感じたそうだ。このように身近にお客様の喜びの声が聞けることが玉谷さんにとって大きなやりがいとなっている。

入社のきっかけとしてもう１つ、自分の本音を親身に聞いてくれる社員の方々の雰囲気を挙げていた。入社後もその印象は変わらないようだ。玉谷さんはメンバーズカードの勧誘が好きで、ある月のカードの入会者数１位を獲得したこともあるという。そのタイミングで閉店後に店長が全員を招集して玉谷さんに良い勧誘の仕方を提案する場を設けてくれ、自分の提案を先輩社員も実践してくれたそうだ。「入社１年目の新人の提案を聞いてくれる 10 年目 20 年目の上司もなかなかいないと思う。」と玉谷さんは笑顔で語る。そんな社内の雰囲気が接客の質の向上につながり、地元の人に愛されるファミリアの由縁となっているのだと感じた。

現在は売り場で働いているが、いつか他の部署に配属されても今接客しているお客様のことを忘れずに働いていきたいと自分の将来像を語る姿はとてもいきいきとしていた。

玉谷　佳穂 さん
2016 年　経営学部卒業

株式会社ファミリア
総務人財部
阪急うめだ本店ファミリア

子どもの可能性をクリエイトする

株式会社ファミリア

繊維・アパレル

事業内容

ベビー子ども服の製造・販売を中心に、イベント・セミナーの開催や、保育園「ファミリアプリスクール」の運営等を通して、子どもの健やかな成長をサポートします。

PR

企業理念は「子どもの可能性をクリエイトする」。創業時から変わらない「愛情品質」を大切にしながら、さまざまなこだわりと愛情を込めた“べっぴん”をお届けしています。若手のうちから活躍のチャンスがたくさんあり、子どものためになることであれば、今はやっていない新しいことでも提案し、チャレンジできる環境です。

採用職種

総合職（様々な職種を経験し、将来は経営の一翼を担っていただきます）

神戸大学生へのメッセージ

ファミリアは 1950 年に神戸で創業した会社で、社名の通り全員が「家族」のような暖かい雰囲気です。ビジョンである「世界でもっとも愛されるベビー子ども関連企業」を一緒に目指してくれる方、そしてこれからのファミリアを力強く引っ張っていってくださる方をお待ちしています。

ホームページアドレス　https://www.familiar.co.jp/recruit/index.html

［執筆者／国際文化学部　吉田　真菜］

既存の枠組みを越えてゆく、果てなき技術開発精神

取材テーマ
技術力

古野電気株式会社

技術研究所　研究部　ハードウェア・システム技術研究室　室長　**岡田　勉** さん

日本は古くから島国として海との繋がりは深い。古野電気株式会社もまた海と関わりを持つ企業の一つだ。長崎県で船の電気工事から始まった企業。漁船や商船向け電子機器の製造販売において圧倒的なシェアを誇り、漁業分野においてそのブランドを確立、国内外を問わず製品は広く利用されている。今回は世界で愛される“FURUNO”製品を作り上げる技術力について、ご自身も神戸大学工学研究科 OB である岡田さんに伺った。

「技術力と発想は一心同体」とは岡田さんの言葉。製品作りの過程で自由な発想を重んじ技術者間の対話が活発な点が古野電気の特徴だ。セミナーやワークショップが多く設けられそこから研究テーマが生まれるなど、社内での技術開発に向けた取り組みは盛んだ。

社外での取り組みも活発である。オープンイノベーションに積極的で近年他社との連携を深めている。また産学連携での開発にも長年取り組んでおり、私たちの神戸大学とも研究開発を行っている。今では超音波・電波というテクノロジーは船舶に留まらず応用が進められており、医療・気象分野といった事業にも展開しているそうだ。

こうした取組みの根底には SPC ＆ I という古野電気が掲げる事業テーマがある。

センシング（Sensing）、情報処理（Processing）、情報通信（Communication）。3 つの技術を軸に、培ってきた知識・ノウハウを統合（Integration）する―。この確固たる考え方があってこそ、既存事業に付加価値を与え時代ごとに変化するニーズに対応すると同時に、新たな事業領域進出を可能にしているのだ。

当初は「海を事業領域とする企業」というイメージが強かった古野電気。しかし取材を通じて、認識が改められた。事業フィールドは、船舶事業で培われた技術の応用により暮らしの様々なシーンに拡大し、存在感を増している。「海底から宇宙まで」。そのフレーズに違わず古野電気の技術が世界を支えている。

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

世界中で役立っている、その誇りを胸に。

「印象に残った仕事は、海外の市場調査です。」

質問に対して活き活きと語ってくださったのは営業企画部・営業開発課で働く市場雄也さん。営業企画部は新商品の企画、販促資料作成、各営業員・海外から必要な情報の回収など、幅広い業務が存在している。その中で海外市場調査が印象に残ったのは、並々ならぬ思いがあったからだ。

ご自身の就職活動では「この商品は世に自分たちが送り出した、これが世の中を支えているのだ」という実感・誇りを得たいとの思いからメーカーを志望していた市場さん。海外での仕事についても興味を持ち、機会があれば携りたいと考えていたそう。そんな中で決まった単身での海外出張。不安を抱えながらの初出張ではあったが、南アフリカ・ナミビア両国での市場調査は、自分の職業選択の軸や興味に直結する経験になったという。

「各地の取引先を巡ると、自分も知らない古い自社製品が使われているんです。そして現地の方は『素晴らしい製品だからずっと使っている』と言ってくださる。それが何よりも嬉しかった。」市場調査を通じて自社製品の質の高さを再確認し、知らない世界で人の営みを支えているという実感を、確かに得た。異国の地で仕事をすることにより自身の見聞もグッと広がった。終始笑顔で自身の活動を振り返りつつ話してくださった市場さん。そこには一貫した仕事へのやりがいが垣間見えた。

古野電気株式会社は海外進出にも積極的であり、数多くの支社が世界各地に構える。

そのため、社員が世界で活躍する機会は多く、社内の英語教育制度も非常に充実している。

社員の意欲を汲み取る風土が根付いており、早い段階から海外に出る機会にも恵まれている。「もっと世界に自社製品を広げたい。」会社の後押しを受けながら市場さんの仕事は続いてゆく。

市場　雄也 さん
2015 年　法学部卒業

古野電気株式会社
舶用機器事業部
営業企画部　営業開発課

兵庫県西宮市発!世界中の船の安全安心を支えるメーカー古野電気

古野電気株式会社

電機・電子部品・半導体

事業内容

当社は世界で初めて魚群探知機の実用化に成功したメーカーです。現在では東証一部上場、総合舶用電子機器メーカーとしては世界トップシェアを占めるなど、確固たる地位とブランドを確立するに至っております。

採用職種

- 技術系：研究、開発、商品企画、生産技術、ほか
- 事務営業系：国際営業、国内営業、人事、経理、法務、ほか

PR

本社は兵庫県西宮市にあり、研究開発及び営業、管理部門などの拠点があります。現在 60 名を超える神大 OBOG がおり、そのほとんどが西宮から世界を相手にした大きな仕事をしています。中には海外駐在をして活躍している方も。馴染みがない機器を扱っていますが、どれも重要な機械。詳しくはブースでお話しします!

神戸大学生へのメッセージ

世界トップシェアの分野があることも当社の強みですが、よく若手社員から「アットホームな社風」と言われるほど働きやすい社風も私たちの強み。またそれは入社 3 年後平均離職率が約 4%、平均勤続年数が約 17 年という数字にも表れていると考えます。若手 OBOG が説明会に伺いますので、お気軽にお越しください!

ホームページアドレス　http://www.furuno.co.jp/recruit/newgraduate/index.html

［執筆者／法学部　髙橋　篤史］

挑戦を支えるチームワーク

三ツ星ベルト株式会社

産業資材技術統括部　材料技術部　部長　**内海　隆之** さん

取材テーマ

技術力

三ツ星ベルトはその社名の通り、主にベルトを製造・販売する企業である。ベルトはゴムと繊維から作られ、車やバイク、自転車、産業機器、コピー機などのOA機器、家電製品、ATM、といった非常に多くの分野に用いられている。業界ごとはもちろんメーカーごとに求める性能・品質が異なり、競合他社は国内には数社ほどで、国外の他社は「自身の得意分野でなければやらない」というスタンスなのだという。そうした中で同社は「様々なご要望に全てお応えする」というスタンスを取る。また、ベルト以外にも多彩な事業に携り、世界で活躍する企業であるのにトップが「我々は決して大企業ではない」と言うほどに挑戦的姿勢を有する。

今回お話を伺った内海氏は、様々な製品の目的に合わせた性能を持つベルトの、材料開発をする材料技術部に所属する。同社の技術力を内海氏は、①ゴム・繊維ともに様々な要求に応える材料技術②お使い頂く条件でベルトがどのような挙動を示すかといった解析をする技術③チームワーク、にあると語る。特にチームワークについて内海氏は強く語った。「国内で700名ほどの規模のため、全員が顔見知りで、名前を言われて知らない人がほぼいないほど繋がりが強い。」と言うのだから驚きである。また、「仕事を縦に割らず個人が色々なことを幅広く手掛けるため、人と多く関わらなければならない。それに伴い誰かが困っていれば助けなければいけないと考える文化が存在する。」と言う。繋がりの強さ、チームワークが三ツ星ベルトを支えている。

内海氏は入社約5年目に自動車エンジン用のベルトの研究開発に携わり「普通では取らない手法」により世界トップレベルの或る特性を持ったベルトの開発を行った。

当時の上司の方がその手法を取る許可をくれたことに、感嘆と感謝を感じていた。そして、内海氏が管理をする立場での話として、世界初の低燃費性を備えた自動車エンジンのベルトを、入社約3年目の若手社員がリーダーとなり作った時の話を語る。自身が管理する若手社員がそれほど大きなものに携わり責任を持ったことを「面白かった」と言い、「やりたいと言っていることを抑えたら面白くない。」と語るのは印象的だった。そのような内海氏でさえトップには「なぜすぐにやってみないのか」といつも発破をかけられるそうだ。技術力の高さはさることながら、若いうちから、やりたいことをやらせる気風の定着と継承が伺われる。

チームワークを支えとして、色々なことをやる、やりたいと考えることをやらせる、若いうちからやる、という考えにより三ツ星ベルトの技術力がある。

先輩からのメッセージ　テーマ「入社前後の“地元企業”イメージ」

「人の温かさ」がもたらす「働く楽しさ、意欲、円滑な業務」

伊藤氏は国際文化学部を 2015 年に卒業し、地元でありながらグローバルな事業展開をしている企業で働きたい、という考えから三ツ星ベルトに入社した。同氏は入社前、三ツ星ベルトに対して「関西でグローバルに働け、のびのび自由にでき、地域貢献を熱心に行う温かなイメージを抱いていた。」と語る。そのイメージは現在でも変わらず、温かい職場だと一層感じているという。また、「働く上で全体が見え、自身の役割がわかり、自身の働きが会社や周囲に及ぼす影響が見えやすい。やりがいを感じやすいという印象が加わった。」とも語る。

現在伊藤氏は、海外事業強化担当で、日本本社における各海外拠点からの窓口となる仕事をしている。海外からの注文がきた製品を製造部門との間で納期調整を行う、海外営業のサポート業務として日本の技術者にバックアップを求める、といった仕事である。同氏は、「仕事に対してきついのではないかというイメージを持っていた。しかし、実際に働くと毎日が楽しい。そうあることができるのは一緒に働く周りの方々のお陰である。」と語る。どこに行っても声をかけてくれ、放っておけない存在として見てもらえていると強く感じているそうだ。上司が部下の面倒をよく見るという風土が根付いていると感じた。また、「普段からの信頼関係があるから意欲が湧く。」と語る。他部署の方と普段からよく関わり信頼を築くことで、他の業務を知ることができて自身の役割の理解が深まり、親密だからこそ自身の働きが及ぼす影響が見えやすくなる。そして、やりがいが一層と感じられ、仕事に対する、密接に関わり信頼を築くことに対する意欲の向上に繋がる。

そうした温かさや強い繋がりは、業務の円滑さにも良い作用を及ぼす。自身の部署で完結する仕事はなく、他部署の人の協力が必要になる。同氏は特に、海外拠点と日本本社、海外営業と日本の技術業務・製造部門を繋げる、人と人との橋渡しの役割を担うため、常日頃から関わりを持ち互いを知ることで、業務自体がやりやすくなることを痛感している。

入社直後はベルトについて門外漢であった同氏は、「温かな周囲の方々のおかげで、理解が深まってきた。今後さらに、目の前にある自身の仕事だけでなく、広い視野を持ち情報集約を行うことによって、様々な角度から海外営業の方々を支えたい。」と語る。

伊藤　未紗 さん
2015 年　国際文化学部卒業

三ツ星ベルト株式会社
産業資材管理統括部
海外事業強化担当

1919 年創業。「ものづくり」を通じて豊かな未来を創造します。

三ツ星ベルト株式会社

ゴム・ガラス・セメント

事業内容

自動車エンジン用をはじめとした各種産業用ベルト、建築・土木用防水シート、高機能プラスチックなどの製造・販売をグローバルに展開しています。

PR

「高機能、高精密、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」を経営基本方針に掲げ、「人を想い、地球を想う。」の基本理念のもと、人々の生活と産業の発展を支える製品を社会に提供してまいります。

採用職種

理系職種：研究開発／技術開発／設計開発など、文系職種：営業／企画／財務／法務など

神戸大学生へのメッセージ

会社を取り巻く環境は非常に早いスピードで変化します。無難にまとまるのではなく、高い目標と責任感を持ち、果敢に挑戦し続けることが必要です。当社では神戸大学OB・OG22名が幅広い分野で活躍しています。先輩たちと一緒に絶え間ない挑戦で自らを成長させてください。

ホームページアドレス　http://www.mitsuboshi.co.jp/japan/recruit/

［執筆者／工学部　五十嵐　流光］

過去から遥か未来まで。地域とともに歩み続ける。

取材テーマ
理念・ビジョン

株式会社みなと銀行

姫路統括部　法人営業部長　**岡本　章裕** さん

兵庫県の県花、ノジギクをあしらった青いシンボルマーク。一度は目にしたことがある方も多いと思う。このマークを掲げるみなと銀行は、兵庫県内100ヵ所に店舗を持つ地方銀行だ。絶えず移り変わりゆく社会の中で、県内有数の地方銀行として掲げ続けている理念とは何か。岡本部長に伺った。

みなと銀行が掲げる理念。それは地域とともに歩む、である。

メガバンクとは異なり、地域密着のイメージがある地方銀行。そのイメージに違わず、最大の顧客はその地で生活する人々である。必然、業務で求められるのは「地域とともに歩む」理念の実践だ。「相手との距離間を縮める。基本的なことだが、その積み重ねが理念に繋がる。」

理念の実践と浸透には余念がない。各店舗により取り組みは異なるが、お客さま本位の業務活動に加えてその地域の方々とコミュニケーションをとる行事への参加が主であり、その手段は各地域によって異なる。たとえば、取材させて頂いた姫路支店では姫路マラソンのボランティアや「姫路みなと祭り」への行員参加を募っている。「理念を印字したうちわの配布」といった社外での取り組みから、「姫路検定」受検を通じた地域理解といった取り組みまで、様々なアプローチを続けているが、いずれもお客さまである地域の方々や、その土地を知り、理念を伝えたいという意識の表れだ。いかにして地域を知っていくか。その問いに対して積み重ねてきた取り組みの数々には、驚かされるばかりであった。

みなと銀行は様々な経歴をもつ行員が集まっている。全員をまとめていくために、理念を意識づける文化づくりが今後ますます重要になってくる、と岡本部長は語る。社会は変化し、銀行が求められることも増えていく。しかし、そこで必要となるのはブレることのない理念だ。行員一人ひとりが地域とともに歩む心を忘れない。変わる社会で、変わらない理念を胸に。みなと銀行は地域に無くてはならない銀行を目指している。

先輩からのメッセージ　テーマ「印象に残った仕事」

ゼロからの挑戦、掴み取った確固たる自信

伊東さんは国際文化学部出身の現在 12 年目。

3 ～ 4 年で転勤するのが銀行員としては一般的だが、本部での勤務が 8 年目という異色の経歴の持ち主だ。銀行の主たる業務、「融資」「預金」とは少し違った業務に携わる伊東さんの印象に残った仕事について伺った。

入行後、支店配属になった後は営業をはじめ、銀行業務の基本について学んだという伊東さん。転機は 3 年目に訪れた。本部への異動である。銀行の余剰金を有価証券で運用していくのが現在の伊東さんの仕事である。

自分で物事を調べたり考えることが好き、という性格に適性があったのでは?としつつも、「県内の転勤を繰り返して営業を続ける印象が強く、異動の少ない本部勤務が実はショックだった」と笑いながら語ってくださった伊東さん。しかし「異動先の業務の奥深さを知るにつれ、その気持ちも薄れていった」と言う。

最も印象に残った仕事は、みなと銀行として初めて投資する運用商品とその管理体制の企画立案だそうだ。銀行では多数の部署が話し合いながら必要な管理体制を見直し、構築している。当時、その運用商品の導入は必要なことではあったが、行内に経験のある方は少なく正真正銘、ゼロからのスタートだった。「初めて、『できないかもしれない』と思いました」と伊東さんは当時を振り返る。途方に暮れながらも、自分なりの答えを出すため様々なセミナー、仕事の繋がりを最大限活用した。挫折しそうな苦しい時期を経た末に、任された仕事を完遂、大きな自信がついたという。

イメージしていた仕事とは異なる仕事に就くことも時にはある。しかし、それは時に思いもよらない経験をもたらす。伊東さんは、良いチャンスに巡り合ったと捉え、自信を得た。現在は後輩を指導する立場になりつつある。そんな中でも、「吸収することに貪欲でありたい。」そう語る伊東さんの表情はどこまでも明るかった。

伊東　こころ さん
2005 年　国際文化学部卒業

株式会社みなと銀行
市場金融部　上席代理

地域のみなさまとともに歩みます

株式会社みなと銀行

BANK
銀行

事業内容

銀行業

PR

みなと銀行は、県下最大規模のネットワークを擁する地域金融機関です。「地域のみなさまとともに歩みます」という経営理念を掲げ、金融に関するコンサルティング機能を発揮し、お客さま・社会に対し、最適なソリューションを提供することにより、地域での存在感を発揮し「信頼される地域のコアバンク」を目指しています。みなと銀行には、幅広い活躍のフィールドがありますので、地方銀行業界に興味のある方は是非、説明会にお越しください。

採用職種

事務職（総合職・一般職の区分なし）

神戸大学生へのメッセージ

みなと銀行では、神戸大学の OB・OG の方々が多数活躍しています。みなと銀行での幅広い業務分野において、高度な金融知識を習得し、「金融のプロ」を目指したいという方のご応募をお待ちしています。

ホームページアドレス　http://www.minatobk.co.jp/recruit/

［執筆者／法学部　髙橋　篤史］

特定の部品を確実に洗える洗浄機を

森合精機株式会社

装置事業部　事業部長　**若松　郁夫** さん

「ちょっと指つけてみ」

そう促され手渡された液体に恐る恐る小指をつけた。そのひんやりした感触は、確認する間もなく一瞬で気化し、乾いたままの指がそこにあった。森合精機は産業用の部品を洗浄する、洗浄機をメインに扱う BtoB メーカーである。森合精機は長年、油圧機器の製造に携わってきた。転機となったのは今から 30 年前に遡る。当時、取引先であった自動車メーカー各社では、基幹部品をさらに高品質にし、その品質を維持することが課題であった。部品洗浄の技術に着目した森合精機が、今の地位を築くことになったきっかけである。

洗浄機を作るにあたって課題になるのは洗浄後すぐに次の加工ができるように「いかに部品を乾燥させた状態にするか」と作業場の邪魔にならないように「いかにコンパクトな洗浄機にするか」だと若松事業部長は語る。先ほどの液体の正体は「代替フロン」と言い、値段は高いが洗浄液がすぐ乾燥するため、時間をおかずに次の加工に移ることができるという画期的な代物だった。

洗浄機はニッチな業界ではあるが、気を抜けばあっという間に淘汰される。だからこそ多様な顧客ニーズへの高い対応力で、弛まぬ企業努力を続けてこられた姿勢が伝わってきた。

そんな森合精機のこだわりは、「特定の部品を確実に洗える洗浄機を作る」ということである。1 種類の部品のみに特化した専用の洗浄機を作り出す。非効率と思えるほどのこだわりであるが、「何でもそこそこ洗える標準洗浄機」だけではなく、「どんな小さな異物や水分も残さない洗浄機」を作るというところに同社の最大の強みがある。

年々高まるお客様の要望水準に応えるべく、更には工場で場所を取らないコンパクト、且つ生産ラインを邪魔しない効率性の高い製品を生み出している 。取材の後に、実際の洗浄機を見学させて頂いたが、高さ・横幅共に私より小さく、水洗浄するや否や乾燥した状態で部品が出てきた。私が森合精機を取材していて感じたのは、徹底した “for the customers” の精神である。お客様の期待に忠実に応える技術力の高さに、日本のモノづくりの気概を感じることができた。

若松事業部長は、「森合精機はまだまだ発展途上の会社である。やりたいことが全て出来る訳ではないし、大企業ほど十分な体制や福利厚生がある訳ではない」と正直に語ってくれた。しかし、人数が少ないからこそ一人ひとりの裁量権が大きく、成長できる環境がそこにはある。一度同社のセミナーに足を運び、モノづくりに対する気概を感じてみてほしい。

取材テーマ

技術力

先輩からのメッセージ

テーマ「印象に残った仕事」

伝え方がとても大事

2015 年に工学部を卒業し、森合精機に入社した雪島さんは、2 年目にして念願の装置事業部の開発課に抜擢された。現在は開発課の課長と 2 人で製品の開発を担っている。

印象に残った仕事を尋ねると、当時売れ行きが芳しくなかった商品をほぼ 1 人で改良した案件を話してくださった。

当時の雪島さんは、性能が高い商品を開発すれば勝手に売れるものだと考えていた。しかし、お客様のニーズとしてはコンパクトさ、乾燥性はそのままに「デザインを改良してほしい」とのことだった。

「意外と性能だけじゃないんだな。」雪島さんは当時そう感じたと振り返っている。

そこから怒涛の日々が始まった。課長と相談をしながら、開発をするのは雪島さんほぼ 1 人。デザインを色々と変更するために、根本から開発し直す必要も出てきた。そんな圧倒的に経験が足りない中、雪島さんが感じたのは「情報収集と伝え方がとても大事だ」ということである。

営業や現場の方に、お客様のニーズを聞くときは出来る限り専門用語を使わずに話す。

逆に、開発課長や設計の技術職の方にアドバイスをもらうときは、出来る限り正確に、理路整然と客観的根拠をもって話すようにしていた。当たり前に聞こえるかもしれないが、話す相手によって言葉を選ぶことで自分の知りたい情報を得られるし、伝えるべきことを正確に伝えることができるということを学んだ、と雪島さんは語ってくれた。

そんな雪島さんの今後の目標は「ヒット商品を生み出すこと」だそうだ。実験・検討を繰り返し洗浄の精度を高め、お客様から信頼を勝ち得たとしても、何年も売れるような商品を作ることは簡単ではない。だからこそやりがいをもって取り組みたい目標だと話してくれた。

ただ、入社 2 年目になり、社会人としての未熟さや経験数にはがゆい思いを抱きつつも成長を実感しておられた。だからこそ、「学生のうちは就活ばかりに囚われず、勉強やサークルなどにも後悔しないように取り組んで欲しい。そして、ハードな環境の中でも自分で色々な業務に取り組んでみたいという人は是非とも一緒に仕事をしたい。」雪島さんはそう静かに語ってくれた。

雪島　良太 さん
2015 年　工学部卒業

森合精機株式会社
装置事業部　開発課

あなたの「こころ」も完璧に洗います!

森合精機株式会社

機械

事業内容

工業用洗浄機（国内シェア NO.1）、油圧機器、減速機メーカー

PR

森合精機は、50年の歴史がありながら、若手が大活躍しており、平均年齢35.7歳。早ければ30代前半で管理職へ登用されています。前向きネアカの実行集団!プラス思考でとにかくやってみよう!という人間が多く集まっています。あなたもぜひ私たちと一緒に働いてみませんか?

採用職種

技術系総合職、事務系総合職、営業

神戸大学生へのメッセージ

神大卒の先輩が活躍している森合精機は、工業用洗浄機で、国内シェア NO1 !他社の追随を許しません。国内の全自動車メーカー様を中心に、ご愛顧いただいています。世界を相手に仕事がしたい、地元企業でじっくりとキャリアを積みたいなど、様々な思考の方に働いていただけるフィールドがあります。

ホームページアドレス　http://www.morigoseiki.co.jp

［執筆者／経済学部　濱口　彰浩］